

生活科学学習指導案

令和2年11月9日(月)第2校時 第1学年3組(1年3組教室) 指導者 下田 崇之
野村 千紘

【単元】あきの いいところ みいつけた(内容(6)「自然や物を使った遊び」)

考 察	知識及び技能の基礎	思考力, 判断力, 表現力等の基礎	学びに向かう力, 人間性等
育成を目指す 資質能力	・秋と自分自身の特徴・よさへの気付き ・秋のものを使って切ったり書いたり貼ったりして作品や遊ぶものを作る技能	・秋と自分自身を関連付けながら, 秋のよいところを見付けるという目的を見だし, 作品や遊ぶものを作る工夫をし, 実践する力	・秋のよいところを見付ける意欲や自信を高めながら, 友達と協力して作品や遊ぶものを作り出そうとする態度
児童の実態	・秋は, 肌寒い季節であり, 紅葉, 落ち葉, ドングリ, ブドウやリンゴ等の果物といった物があることに気付いている。 ・木の実や枝の手触りや大小, 形が様々であること等の秋の特徴・よさに十分気付いていない。 ・マジックペン, はさみ, のりなどを自分の思いに合わせて使うことができる。	・秋のものを使った自分なりの作品や遊ぶものを作るための工夫をすることはできる。 ・秋のよいところを見付けるという目的の下, 秋のものを使った作品や遊ぶ物を作る工夫をしたことはない。	・2年生からペットボトルキャップを使った遊びを紹介してもらい, 遊びを工夫して創り出すことに目を向けてきている。また, 「公園探検」で見付けた木の実や枝等に関心をもち, それらの生かして物を作ったり遊んだりしたいという思いをもってきている。
価値	・秋は, 色鮮やかな紅葉が見られ, ドングリを初めとする木の実が身近に感じられる季節である。児童は, 公園や校庭で遊んだり, 家族と出掛けたりした際に, 秋のものと出会い, 触れる機会が多くある。また, 幼児教育活動の中でも, 落ち葉や木の実を含む, 自然と関わる遊びを体験してきている。これらの経験を基盤とし, 友達とともに, 秋のものを使った作品や遊ぶものを作る一連の活動を行うことで, 以下の資質・能力の育成につながる。また, 単元末に行う「秋展覧会」で, 作った作品や遊ぶものを紹介し合うことで, 秋の特徴・よさにさらに気付けるとともに, 今後の生活に秋の特徴・よさを生かそうとすることができる。 ・落ち葉, 枝, 木の実等の色, 大きさ, 形の違いや, 挟める, 折れる, 転がる等の特徴・よさに気付くことができる。 ・秋の特徴・よさを見いだせた自分自身のよさや自分が思い付かなかった工夫をしたり一緒に仲よく遊んでくれたりした友達のよさに気付くことができる。	・落ち葉, 枝, 木の実等を大量に用いること, 繰り返し試すことができる。 ・秋のよいところを見付けるという目的に向けて, 友達と関わり合いながら繰り返し試すことができる。	・進んで秋のものを使って, 作品や遊ぶものを作ろうとすることができる。 ・秋のものを利用した, 作品や遊ぶ物を友達に紹介したいという思いや願いをもつことができる。
見方・考え方	身近な自然を利用した遊びを自分にとっての大切さで捉え, 秋のものを利用した作品や遊ぶものを作るについて考えること。		
今後の学習	1年「かぜとあそぼう」で, 風を利用して遊ぶものを作り, それを使った遊び方の工夫をして友達と楽しく遊ぶ学習へと発展していく。		

指導と評価の計画

目標	落ち葉や木の実，枝等の秋のものを使って作品や遊ぶものを作り，「みんなの秋展覧会」で作った作品や遊ぶものを紹介し合う活動を通して，作品や遊ぶものを作る工夫をし，秋の特徴やよさ，自分自身の成長に気づき，今後の生活に秋の特徴・よさを生かそうとすることができる。			
評価 規準	(①知・技) 秋の特徴・よさや自分自身の成長に気付いている。 (②思・判・表) 秋のものを使った作品や遊ぶものを友達と比べたり相談したりしながら，工夫したり試したりしている。 (③主体的態度) 秋のものを使って作品や遊ぶものを作る意欲や自信を高めながら，秋の特徴・よさを見付けようとしている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目＜評価方法（観点）＞※太字は「記録に残す評価」
であう	1	○公園で見付けた秋のものについての感想を発表し合い，学習のめあてをつかむ。 ー 学習のめあて ー 秋の作品や遊ぶものを作って，秋のいいところをたくさん見付けよう	○作品や遊ぶものを作って秋のよいところを見付けたいという思いや願いをもてるように，公園探検で拾った落ち葉や木の実を提示する。	◇落ち葉やドングリ，松ぼっくり等で物作りをして秋のよいところを見付けたいという思いや願いを発言したり記述したりしている。　　＜発言・学習プリント③＞
かかわる	1	○秋のものを使った作品や遊ぶものを作る計画を立てる。(本時)	○秋のものを使った作品や遊ぶもののイメージを膨らませられるように，過年度の1年生の作品と遊ぶものの静止画をそれぞれ複数枚モニターで提示する。	◇自分の作りたい作品や遊ぶものに必要な材料，作る手順を発言したり記述したりしている。　　＜発言・学習プリント①＞
	常時	○校庭や公園，自分の家の近くで落ち葉や木の実，枝等を集める。		
	2	○秋のものを使った作品や遊ぶものを作る。	○秋のものを使った作品や遊ぶものを工夫できるように，作りたい物が似ている友達を集めた座席配置をする。	◇作品や遊ぶものについて友達と相談したり，試したり，他の人の遊ぶものをじっくり見たりしている。　　＜行動・発言②＞
	1	○作った作品を見せ合ったり，遊ぶものを使って遊んだりする。	○秋の特徴やよさにさらに気付けるように，見たり遊んだりした感想を伝える際に「よかったところ」「こうするといいよ」の視点を提示する。	◇自分の作品や遊ぶものの特徴・よさ，次に直したいところを発言したり記述したりしている。　　＜発言・学習プリント①＞
ま・といめかるす	2	○「みんなの秋展覧会」で，作った作品や遊ぶものを紹介し合う。	○秋の特徴・よさや自分自身の成長を実感できるように，友達の作品や遊ぶものを評価するシールとその台紙を用意する。	◇自分の作品や遊ぶものにある秋の特徴・よさや自分ががんばったことを発言している。　　＜発言①＞
	1	○「秋展覧会アンケート」をして，単元の学習を振り返る。	○今後の生活に秋の特徴・よさを生かそうとする意欲をさらに高められるように，「気付いたこと」「これからしていきたいこと」の視点を提示する。	◇秋のものを使った作品や遊ぶものを作って楽しかったことやこれからも秋のものを使って遊びたいといった思いを，絵や文で記述している。　　＜学習プリント①②③＞

本時の学習（2／10時間目）

ねらい 過年度の1年生の、秋のものを使った作品や遊ぶものを基に、作品や遊ぶものを作る計画を立てることを通して、自分の作りたい作品や遊ぶものの具体的なイメージを膨らませることができる。

評価項目 自分の作りたい作品や遊ぶものに必要な材料、作る手順を発言したり記述したりしている。

<発言・学習プリント①>

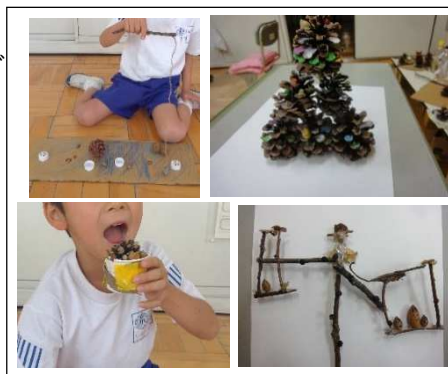
学習活動と児童の意識	指導上の留意点
1 本時のめあてをつかむ。 ・「みんなの秋展覧会」に向けて、作品（遊ぶもの）を作る計画を立てたいな。 (目的意識) めあて：さくひんやあそぶものをつくるけいかくを立てよう	○秋のものを使った作品や遊ぶものを作る計画を立てるという目的意識をもてるように、学習のめあてを提示し、作品や遊ぶものを作るために必要なことを問いかける。
2 秋のものを使った作品や遊ぶものを作る計画を立てる。 ・私は作品を作りたいな。でも、どんな作品にしようかな。 ・〇〇ちゃんは、落ち葉のしおりを作るんだね。それも可愛くていいな。 ・あっ。テレビにクリスマスツリーが映ってる。松ぼっくりを重ねると、大きいツリーが出来るんだな。ねえねえ、あのツリーすごいよね。 ・なるほど、1個の松ぼっくりでも、ドングリや枝や葉っぱをくっつければ、可愛いくてきれいなツリーになりそうだね。絵を描いてみよう。 ・ドングリは、大き過ぎると変だから、小さい物をたくさん付けて…それから黄色いいちょうの葉を付ければ、色が明るくなりそうだ。枝も2本くらい下の方に付けてみよう。 ・作りたい作品（遊ぶもの）が決まったぞ。早く材料を集めて、次の時間から作り始めたいな。 (目的を達成した意識)	○作品や遊ぶものについて進んで友達と相談できるように、作品を作る児童と遊ぶものを作る児童に分けて小集団を編制する。 ○計画を立てる見通しをもてるように、「生活科の学び方」を提示するとともに作品や遊ぶものの完成図や材料などをかく学習プリントを用意する。 ○作りたい作品や遊ぶものを考えるきっかけをつかめるように、2台のモニターにそれぞれ過年度の1年生が作った作品と遊ぶものをスライドショーで提示する。 ○黙々と活動している児童には、作りたい作品や遊ぶものの特徴・よさを意識できるように、工夫して作りたい部分を問いかける。 ○手が止まっている児童には、作りたい作品や遊ぶもののイメージをもてるように、モニターを指さし、作ってみたい作品や遊ぶものを改めて問いかける。 ○自分の作りたい作品や遊ぶもののより具体的なイメージをもてるように、作るために必要な材料を学習プリントに記述するよう促す。 ○計画が立てられたことを実感できるように、次時までには用意したい材料を問いかける。 ○次時への学習意欲を高められるように、「生活科における学び方」を再度提示し、友達と相談しながら計画を立てられたことを称賛する。
3 本時の学習の振り返りをする。 ・次の時間までに、松ぼっくりとドングリといちょうの葉と枝を用意しよう。くっつけるのにボンドも必要だな。 ・次の時間も友達とたくさん相談したり見合ったりして、素敵なツリーを作りたいな。	

授業の振り返り	※授業の様子は、本校 HP でも紹介しています。 【教育研究→令和2年度提案・部内授業の様子】
機器	タブレット（2台）、モニター（2台）、AppleTV
使用アプリ	写真
機能等	スライドショー（共有）、ミラーリング

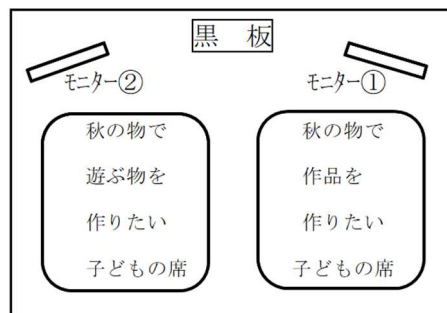
○実際の授業の流れと児童の様子

【導入】 児童は、「秋展覧会」をすることに向けて、木の実や落ち葉、枝などの秋のものを使って作品または遊ぶものを作る計画を立てるというめあてをつかんだ。教師は、タブレット端末に保存した①過去の作品②過去の遊ぶものを写真アプリでスライドショーにし、AppleTVのミラーリング機能を介して、モニター①とモニター②に映した。児童は、完成図や必要な材料を書く学習プリントを受け取り、計画を立て始めた。

【展開】 児童は、右図の教室環境の中で、自分の作りたい作品または遊ぶものの具体的な完成図を、1人で黙々と考えたり、作りたい物が同じ近くの友達と話し合ったりする様子が見られた。その中で、モニターに映し出された過去の作品や遊ぶものをじっと眺める児童もいた。松ぼっくりを使った作品を考えていたある児童は、参考になる作品を探すためにモニターを見て、「ねえ、見て。あれ、面白そう。」「松ぼっくりをたくさん積みゃ大きなクリスマスツリーになるんだね。」などとつぶやいたり、友達に



＜提示した作品や遊ぶものの静止画＞



＜本時の教室環境＞

話しかけて共感を得たりする姿が見られた。これは、過去の作品や遊ぶものを常時モニターにスライドショーで提示したことにより、児童が自分の必要感に合わせてモニターを見て、自分に必要な情報を選択できたからだと考えられる。さらに、作品と遊ぶものに分けてモニターを2台用意し、作りたい物が同じ友達と座席が近くなるよう教室環境を工夫したことにより、モニターに映る情報を得やすくなったと考えられる。一方で、具体的なイメージを既にもっている児童にとっては、モニターを見ずに黙々と計画を立てる姿もあった。

【終末】 児童は、学習プリントにかいた、作品または遊ぶものの完成図と必要な材料を近くの友達と発表し合った。その際、児童は、自分の作りたい作品や遊ぶものの特徴・よさを楽しそうに伝えていた。そして、次の時間には、材料を集めて作り始めたいと口々に発言していた。

○授業改善に向けて

- ・児童が学習をする上で欲する情報を教師が想定し、思いや願いに沿って提示することが大切だと改めて感じた。過年度の学習も含めて、学校全体で各教科等における作品や活動の様子のデータを蓄積し、そこから教師が授業に必要なデータを選択・活用できるようにすることが必要である。



＜モニターを見る児童の様子＞



＜児童の学習プリント＞